

2024年

履修の手引き

博士課程(前期課程)

博士課程(後期課程)

同志社大学大学院

理工学研究科

課程	専攻	コース
博士課程 (前期課程)	情報工学専攻	情報工学コース
		情報工学国際コース(注1)
	電気電子工学専攻	インフラストラクチャコース(注2)
		パワーエレクトロニクスコース(注2)
		光・電子デバイスコース(注2)
		情報通信コース(注2)
		電気電子工学国際コース(注1)
	機械工学専攻	機械工学コース
		機械工学国際コース(注1)
	応用化学専攻	機能化学コース(注2)
		化学工学コース(注2)
		応用化学国際コース(注1)
	数理環境科学専攻	数理科学コース
		環境科学コース
数理環境科学国際コース(注1)		
博士課程 (後期課程)	情報工学専攻	情報工学コース
		情報工学国際コース(注1)
	電気電子工学専攻	電気電子工学コース
		電気電子工学国際コース(注1)
	機械工学専攻	機械工学コース
		機械工学国際コース(注1)
	応用化学専攻	応用化学コース
		応用化学国際コース(注1)
	数理環境科学専攻	数理環境科学コース
		数理環境科学国際コース(注1)

(注1) 国際科学技術コースについては“Doshisha University Graduate School of Science and Engineering International Science and Technology Course, Course Registration Guide”を確認すること。

(注2) コース選択は入学時に行う。

博士課程(前期課程)

1. 修業年限と在学年限

博士課程(前期課程)の標準修業年限は2年です。4年を超えて在学することはできません。

2. 課程修了の要件(国際科学技術コース以外)

修士学位を取得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

- (1) 博士課程(前期課程)に2年以上在学すること。
- (2) 指導教員の指示により「研究実験Ⅰ～Ⅳ」を含めて30単位以上の授業科目を選択履修すること。なお、他専攻科目、専攻共通特殊講義、協定校単位互換科目、関西四大学大学院単位互換科目、国際科学技術コース及び高等研究教育院設置科目合わせて6単位以内を含むことができるが、自由科目を含めることはできない。

※注1)【2022年度以降生】「安全安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人材プログラム」(略称「安全安心高度技術者養成プログラム」)を履修する場合には、コース修了要件(30単位)のうち、必修科目2単位(リスクマネジメント:2単位)、選択科目2単位(安全工学1:2単位、安全工学2:2単位、安全安心実習:2単位から2単位)を含んで登録履修すること。

【2021年度～2019年度生】「安全安心のための課題解決力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人材プログラム」(略称「安全安心高度技術者養成プログラム」)を履修する場合には、コース修了要件(30単位)+必修科目2単位(リスクマネジメント:2単位)+選択科目2単位(安全工学1:2単位、安全工学2:2単位、安全安心実習:2単位から2単位)を登録履修すること。

※注2) 電気電子工学専攻は入学時に「インフラストラクチャコース」「パワーエレクトロニクスコース」「光・電子デバイスコース」「情報通信コース」のいずれかを選択し、各コースが指定する選択必修科目から4科目計8単位以上を修得すること。また、「電磁気学特論」、及び「科学技術英語特論Ⅰ・Ⅱ」もしくは「国際科学技術コース科目 B 群(専門教養科目)」から2単位を履修すること。

※注3) 応用化学専攻は入学時に、「機能化学コース」、「化学工学コース」のいずれかを選択し、春学期に開講される専門基礎科目8科目から、選択したコース内の3科目計6単位以上を修得すること。なお、他コースの専門基礎科目は、専門応用科目として履修できる。また、「科学技術英語特論」・「科学英語表現法特論」を履修すること。

※注4) 数理環境科学専攻は、「数理環境科学特論」・「数理環境科学輪講」を、上記の内容に含めて履修すること。
- (3) 必要な研究指導を受けたうえ、修士学位論文を提出し、最終試験に合格すること。なお、最終試験は学位論文を中心とし、これに関連ある科目について行われる。
- (4) その研究に必要な1カ国以上の外国語に通じていること。

3. 履修方法・修了必要単位数

各専攻の授業科目、履修方法等は、それぞれに定められています。詳しくは『大学院履修要項』の該当ページを確認してください。

・授業 1 週目 (DO Week) と授業 15 週目のオンデマンド配信の受講方法について

2024 年度からの新学年暦では通常の教室での授業は 13 週の授業期間に受講し、残り 2 週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業 1 週目 (DO Week) のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。

また、授業 15 週目のオンデマンド配信を含めて、授業 2 週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■2024 年度からの学年暦

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



4. 学位論文審査および課程修了の認定

修士学位論文は、在学期間中に審査を終了します。「7. 修士学位取得までのプロセス」および専攻の指示に従ってください。なお、課程修了の認定は、研究科長会において行います。

5. 学位論文審査基準

各専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、学位論文審査基準を設けています。

〈修士論文審査方法〉

主査と複数名の副査による論文査読、並びに公聴会等における質疑を通じて、修士論文評価基準を満たしているか総合的に審査し、理工学研究科委員会において合否判定する。

〈修士論文評価基準〉

当該研究領域の諸課題の解決に向けて、専門知識をもとに、理工学の視点から学位を受ける者の主体的な実験的・理論的実証がなされた論文であること。

6. 学位の名称

情報工学専攻	修士 (工学) (同志社大学)
電気電子工学専攻	修士 (工学) (同志社大学)
機械工学専攻	修士 (工学) (同志社大学)
応用化学専攻	修士 (工学) (同志社大学) / 修士 (理学) (同志社大学)
数理環境科学専攻	修士 (工学) (同志社大学) / 修士 (理学) (同志社大学)

応用化学専攻および、数理環境科学専攻の修士 (工学)、修士 (理学) については、指導教員の指導の下に定めます。申請は 1 年次秋学期開始時とします。申請方法については、秋学期開始までに案内いたします。

7. 修士学位取得までのプロセス

修士学位を取得するためには、①各専攻が定める所定の授業科目を履修し、修了に必要な単位数を修得するとともに、②研究指導を通じて修士学位論文を作成し、これに合格しなければなりません。

以下に記載する共通事項以外に、各専攻からの指示を踏まえて、2年間の各自の研究計画を組み立ててください。

「共通事項」最終学年【博士課程（前期課程）2年次】

12月～1月中旬	論文題目届提出
1月中旬～2月中旬	論文提出
論文提出後	主査・副査の決定
1月下旬～2月中旬	論文査読・口頭試問
2月下旬～3月上旬	修士学位論文総合審査（理工学研究科委員会、研究科長会）
3月下旬	学位授与式

語学試験

課程修了の認定に必要な条件の1つとして、その研究に必要な1カ国語以上の外国語によく通じていることが必要とされ、語学試験に合格することでその条件を満たしたものと判断します。語学試験に不合格の場合には、修士の学位は授与されません。なお、語学試験は、毎年8月および11月に実施される予定です。ただし、入学前に実施された語学試験に合格していれば在学中の受験は不要です。

※大学院外国人留学生入学試験を経た者、または、英語を母国語とする者は、語学試験の取り扱いについて、理工学研究科事務室に確認してください。

情報工学専攻

第1年次	年度始め	指導教員の決定
	各学期中	指導教員による研究指導
		研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果公表の推進
第2年次以上	各学期中	指導教員による研究指導
		研究室の中間報告会における進捗状況報告
	1月中	修士論文の提出

電気電子工学専攻

第1年次	年度初め	指導教員の決定
	春学期	指導教員による研究指導
		各研究室の中間報告会における進捗状況報告 専攻が実施する中間発表会でのポスター発表*
秋学期	指導教員による研究指導	各研究室の中間報告会における進捗状況報告
		専攻が実施する中間発表会での口頭発表*

第2年次 春学期 指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
秋学期 指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
以降は第7項の「共通事項」と同様

注) *指導教員を除く複数の審査委員による口頭発表会
(年度内に専攻が認定する学会での口頭発表者は免除することがある)

機械工学専攻

第1年次 年度始め 指導教員の決定
各学期中 指導教員による研究指導
研究室の中間報告会における進捗状況報告
研究成果公表の推進
第2年次以上 各学期中 指導教員による研究指導
研究室の中間報告会における進捗状況報告
以降は第7項の「共通事項」と同様

応用化学専攻

第1年次 年度始め 指導教員の決定
春学期 指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
専攻が実施する中間発表会でのポスター発表*
研究成果公表の推奨
秋学期 指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
専攻が実施する中間発表会での口頭発表*
研究成果公表の推奨
10月上旬 修士(工学)あるいは修士(理学)の決定と申請
第2年次以上 春学期 指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
専攻が実施する中間発表会でのポスター発表*
研究成果公表の推奨
秋学期 指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
研究成果公表の推奨
2月上旬 修士論文の提出

注) *指導教員を除く複数の教員による発表評価を行う。

数理環境科学専攻

第1年次	年度初め	指導教員の決定
	春学期	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告
		秋学期
	10月上旬	修士(工学)あるいは修士(理学)の決定と申請
第2年次	春学期	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告
		秋学期
	1月	修士論文の提出

8. 修士論文提出要領

(1) 部数

自著の論文3部

(2) 論文用紙の紙質、寸法、書式等

A4判、上質紙(再生紙は不可)、横書き、片面使用、左横綴じとする。

1ページ 40字×35行 文字サイズ 11ポイントを目安とする。

ただし、本文で使用する文字は、10ポイント以上であること。

・本文の最初のページを1ページ目として、ページ番号を用紙下部中央に記載すること。

・目次下部中央にはページ番号を付さないこと。必要な場合は、ローマ数字とするなど本文とは異なる字体を用いること。

・目次に記載されているページ番号と論文に付されているページ番号は、一致するようにすること。

※なお、各専攻により詳細な要領を11月下旬頃に配布するので、各自で確認をすること。

(3) バインダー表紙

中身が傷んだり順序が狂ったりしないようにバインダー(レバー式ファイル)に綴じる。

バインダーには表紙を付け、論文題目、専攻、年度・番号、氏名を明記すること。

また、背表紙にも、論文題目、年度・番号、氏名を明記すること。

(4) 修士論文の提出場所および提出期限

掲示等で周知する

春学期末卒業者:7月中旬~8月上旬ごろ、秋学期末卒業者:1月中旬~2月中旬ごろ

各専攻によって異なるため、各自確認すること。

(5) 製本費

論文は理工学研究科において製本、保管するので、製本に要する費用を納入しなければならない。成心館1階に設置している証明書発行機で「理工学研究科修論製本代(1500円)」の納入済証を出力し、研究室事務室(理化学館2階)に提出すること。

受付印が押された修士論文受領票は、論文提出時に提示しなければならないので、大切に保管すること。

(6) その他

1) 学費未納または語学試験不合格の場合は論文の審査を受けられない。

ただし、学費未納者については、論文審査を受けるまでに学費を納めれば審査を受けることができる。

2) 審査終了後、提出された論文2冊は、下記の通り保管される。

1. 学籍番号順に製本のうえ、理工学部・理工学研究科文献室で閲覧に供する。

2. 研究室毎に製本のうえ、各研究室で保管。

9. 学費減免について

2年以上在学し、所定の単位を修得した者については、大学院学則別表I 学費 博士課程(前期)及び修士課程(4)が適用され、学費減免の措置を受けることができます。ただし、授業科目(研究実験を含む)を登録した場合は、学費減免の措置は対象外となります。

〈大学院学則別表I 学費 博士課程(前期)及び修士課程(4)〉

博士課程の前期課程又は修士課程において、2年以上在学し、所定の単位を修得した者は、次の学期から所定単位修得者欄に記載の学費を適用する。ただし、学部又は大学院の授業科目の履修を希望するもの及び(8)の長期履修学生については、適用しない。

博士課程(後期課程)

1. 修業年限と在学年限

博士課程(後期課程)の標準修業年限は3年です。6年を超えて在学することはできません。

2. 課程修了の要件

博士学位を取得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

- (1) 博士課程に5年(博士課程の前期課程または修士課程を修了した学生は、当該課程の2年の在学期間を含む。)以上在学すること。
- (2) 指導教員の指示により各々の専攻において「特殊研究Ⅰ～Ⅵ」12単位、「特別セミナー」4単位を履修すること。ただし、「特別セミナー」については同一テーマの履修は2単位までとする。
- (3) 必要な研究指導を受けたうえ、博士学位論文を提出し、最終試験に合格すること。なお、最終試験は学位論文を中心とし、これに関連ある分野についておこなわれる。
- (4) その研究に必要な1カ国以上の外国語によく通じていること。

※在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、3年(博士課程の前期課程2年又は修士課程2年を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

3. 履修方法・修了必要単位数

各専攻の授業科目、履修方法等は、それぞれに定められています。詳しくは『大学院履修要項』の該当ページを確認してください。

4. 学位論文審査および課程修了の認定

博士学位論文は、在学期間中に提出することになります。第7項“7. 博士学位取得までのプロセス”および専攻の指示に従ってください。なお、課程修了の認定は、研究科長会においておこないます。

在学中に博士学位論文を提出できない場合は指導教員に相談してください。

5. 学位論文審査基準

各専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、学位論文審査基準を設けています。

〈博士論文審査方法〉

各専攻が定めた博士論文審査の要件を満たした論文を受理し、主査と複数名の副査による論文査読、並びに公聴会等における質疑を通じて、博士論文評価基準を満たしているか総合的に審査し、理工学研究科委員会において合否判定する。

〈博士論文評価基準〉

当該研究領域の諸課題の解決に向けて、専門知識をもとに、理工学の視点から学位を受ける者の主体的な実験的・理論的実証がなされ、かつ新規性・独創性・学術的価値を有する論文であること。

6. 学位の名称

情報工学専攻	博士（工学）（同志社大学）
電気電子工学専攻	博士（工学）（同志社大学）
機械工学専攻	博士（工学）（同志社大学）
応用化学専攻	博士（工学）（同志社大学）／博士（理学）（同志社大学）
数理環境科学専攻	博士（工学）（同志社大学）／博士（理学）（同志社大学）

応用化学専攻、数理環境科学専攻の博士(工学)、博士(理学)については、指導教員の指導の下に定めます。博士学位論文申請時に所定様式にて申請すること。

7. 博士学位取得までのプロセス

理工学研究科・博士課程（後期課程）において、博士学位を取得するための各専攻共通のプロセスは次の通りです。下記の共通事項以外に、各専攻からの指示を踏まえて、3年間の各自の研究計画を組み立ててください。

「共通事項」

最終年次

11月	論文審査願等必要書類一式提出
12月上旬	研究科委員会の開催（主査、副査、副審査委員の決定）
1月～2月上旬	論文査読・公聴会・総合試験
2月中旬～3月上旬	博士学位論文総合審査（理工学研究科委員会、研究科長会）
3月下旬	学位授与式

語学試験

課程修了の認定に必要な条件の一つとして、その研究に必要な1カ国語以上の外国語によく通じていることが必要とされ、語学試験に合格することでこの条件を満たしたものと判断します。語学試験に不合格の場合には、博士の学位は授与されません。なお、語学試験は、毎年8月および11月に実施される予定です。ただし、入学前に実施された語学試験に合格していれば在学中の受験は不要です。

※大学院外国人留学生入学試験を経た者、または、英語を母国語とする者は、語学試験の取り扱いについて、理工学研究科事務室に確認してください。

情報工学専攻

第1年次	年度始め	指導教員の決定
	各学期中	指導教員による研究指導 研究成果の公表（論文発表、学会発表など） 研究室における中間報告会における進捗状況報告
第2年次	各学期中	指導教員による研究指導

研究成果の公表(論文発表、学会発表など)
研究室内の中間報告会における進捗状況報告

第3年次以上 各学期中

指導教員による研究指導
研究成果の公表(論文発表、学会発表など)
研究室内の中間報告会における進捗状況報告
11月 博士学位論文の提出

電気電子工学専攻

第1年次 年度初め 指導教員の決定
各学期中

指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
専攻が実施する中間発表会での口頭発表*

第2年次 各学期中

指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
専攻が実施する中間発表会での口頭発表*

第3年次 各学期中

指導教員による研究指導
各研究室の中間報告会における進捗状況報告
以降は第7項の「共通事項」と同様

注)*指導教員を除く複数の審査委員による口頭発表会

(年度内に専攻が認定する学会での口頭発表者は免除することがある)

機械工学専攻

第1年次 年度始め 指導教員の決定
各学期中

指導教員による研究指導
研究成果の公表(論文発表、学会発表など)
研究室内における中間報告会における進捗状況報告

第2年次 各学期中

指導教員による研究指導
研究成果の公表(論文発表、学会発表など)
研究室内の中間報告会における進捗状況報告

第3年次以上 各学期中

指導教員による研究指導
研究成果の公表(論文発表、学会発表など)
研究室内の中間報告会における進捗状況報告

以降は第7項の「共通事項」と同様

応用化学専攻

第1年次	年度始め	指導教員の決定
	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文発表等)
	秋学期	専攻が実施する中間発表会での口頭発表
第2年次	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文発表等)
	秋学期	専攻が実施する中間発表会での口頭発表
第3年次以上	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文発表等)
	11月	博士学位論文の提出

数理環境科学専攻

第1年次	年度始め	指導教員の決定
	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文投稿等)
第2年次	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文投稿等)
	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文投稿等)
第3年次	各学期中	指導教員による研究指導 各研究室の中間報告会における進捗状況報告 研究成果の公表(学会発表、論文投稿等)
	11月	博士学位論文の提出

8. 博士論文審査の要件

博士論文を提出して、博士の学位を得るためには、原則として以下の要件を満たす必要があります。

情報工学専攻

学術論文 2件

予稿が出版される学術的国際会議で筆頭著者の学術講演を行うこと。

電気電子工学専攻

提出者を筆頭著者とする査読付論文が公表済あるいは掲載決定 2件

(内1件は有審査国際会議でも可)

機械工学専攻

当該研究分野に密接に関係する学術論文等に公表済あるいは掲載決定 2件

応用化学専攻

当該研究分野において、査読付論文誌に3篇以上公表済あるいは掲載決定されていること。あるいは査読付論文誌に2篇公表済あるいは掲載決定され、かつ投稿済の論文が1篇以上あること。

数理環境科学専攻

査読付論文が公表済あるいは掲載決定 2件(ただし単著の場合は1件でも可)

9. 博士学位論文申請について

(1) 提出書類および必要数

		論文博士	課程博士
1	論文	3	3
2	論文要旨	3	1
3	学位申請書	2(紙媒体)	
4	学位論文審査願		1(紙媒体)
5	履歴書	2	1
6	研究業績一覧表	2	1
7	論文目録	2	1
8	写真	1(紙媒体)	1(紙媒体)
9	研究科委員会審査資料 1	1	1
10	研究科委員会審査資料 2	1	1

(2) 手続き

- ① 上記書類を期日までに提出すること。
- ② 博士後期課程に3年以上在学し、退学後3年以内に博士学位論文の提出を希望される場合は、別途手続きが必要です。早めに、指導教員および理工学部・理工学研究科事務室まで相談すること。
- ③ 論文が合格と判定された後、すみやかに論文を本製本(3冊)すると共に電子データ化し、同志社大学学術リポジトリ登録に必要な書類とともに提出すること。

(3) 書類等の提出先および質問等受付

同志社大学理工学部・理工学研究科 研究室事務室(理化学館2階)

610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

電話:0774-65-6212

メール:jt-koukn@mail.doshisha.ac.jp

※メールにて書類等を送付する場合は、メールの件名に、わかりやすく「博士論文要旨」などのキーワードおよび申請者氏名等を記載すること。また、メール送信後数日経過しても担当者から受理の返信がない場合、メールが届いていない可能性があるため、必ず受理されて

いるか電話等で確認すること。

(4) 注意事項

1. 最初に3冊提出する論文は、製本用背表紙をつけるなど、ページの差し替えができない状態であれば仮製本で差し支えない(レバー式バインダーや穴あけファイル等に綴じた物は受理できない)。
2. 上記3または4および、8の写真(縦6cm×横5cm)を貼り付ける台紙については、理工学部・理工学研究科研究室事務室にて受け取った用紙を使用し、原本を提出すること。それ以外の書類については必要事項を入力した後、申請者がA4用紙に印刷し提出する。自筆で署名する欄がないものは、電子データで提出すること。※上記の提出部数は紙媒体で提出する際の部数
3. 書類は全て黒インクで記入すること。ただし、論文および論文要旨はこの限りではない。訂正が必要な場合は、訂正する箇所に二重線を引き、線の上に訂正印を押印すること。
4. 論文目録について
 - (1) 論文題名が外国語の場合は、和訳を付記すること。
 - (2) 参考論文が複数ある場合は、列記すること。
 - (3) 論文の全文が公表されていないときは、予定を記すこと。
5. 履歴書について
 - (1) 氏名欄は自署とする
 - (2) 学歴は高等学校入学以後の履歴につき年次順に記入すること。なお、休学歴がある場合は明示のこと。
 - (3) 学位は修士以上の学位を記入する。なお、学位には専攻分野の名称、授与機関名等を付記すること。
6. 研究業績一覧表について
 - (1) 項目は著書、論文、研究発表(学会等での口頭発表)、その他に分け、項目ごとにまとめて記入する。
 - (2) 著書はその発行所名、論文は掲載誌名、巻・号、掲載ページ等、研究発表は学会名等を記入すること。その他のものについても、これに準ずること。
7. 研究科委員会審査資料1について
主査の代わりに提出する場合のみ必要。その際は主査の承認を得ること。
8. 研究科委員会審査資料2について
提出者が作成して提出すること。各専攻の論文提出要件の確認のために必要であるので、業績書記載の内容を誤りなく記載すること。ただし、業績は論文名と掲載誌名のみで良い。

10. 学費減免について

3年以上在学し、所定の単位を修得した者については、大学院学則別表I 学費 博士課程(後期)(4)が適用され、学費減免の措置を受けることができます。ただし、授業科目(特殊研究、特別セミナーを含む)を登録した場合は、学費減免の措置は対象外となります。

〈大学院学則別表Ⅰ 学費 博士課程(後期)(4)〉

博士課程の後期課程において、3年以上在学した者は、次の学期から3年以上在学者欄に記載の学費を納入するものとする。ただし、学部又は大学院の授業科目の履修を希望するもの及び(7)の長期履修学生については、適用しない。